

優秀賞

考え続けること、行動すること

神戸市立平野中学校 2年

清水 久瑛

私はどんな時に幸せを感じるのだろうか。おいしいものを食べる時、誰にも邪魔されずにゆっくり本が読める時、新しい服を買った時。私の感じるこんな幸せを、世界中に分けることができるのだろうか。

私は三人姉妹の次女で、分け合うことはわりと得意だし、好きでもある。分けてもらう時も、分けてあげる時も、特別にうれしい気持ちができるものだ。けれども「幸せ」のような漠然としたものは、どうやって分け合えばいいのだろうか。

ヒントは、意外と身近なところにあった。ある日姉が、長かった髪をバツサリ切って帰ってきたのだ。

「どしたん？」

「寄付してきた。」

ヘアードネーションといって、小児ガンなどで髪を失った子ども達に、寄付された髪でウィッグを作って提供する活動があり、彼女もそのために髪を切ったという。

「そのヘアードネーションって、いつどこで知ったん？」

いつか新聞で、この活動を紹介している記事を読んだという。そして、その時、自分にもできるなと思って髪を伸ばしていたそう。

寄付といえば、両親も毎月、子どもの権利を守る活動をする NGO に寄付をしている。母に寄付するようになったきっかけを尋ねてみた。すると、中学生の時、社会の先生が、自分は毎月その NGO に寄付をしている、と授業中の雑談で話すのを聞き、大人ってそういうことをするんだなと思い、自分も働くようになってから寄付を始めたのだとか。

そうか、幸せそのものを分け合う、というよりも、幸せを生み出すであろう物を分け合えばいいのだ。しかも、周りを見回してみれば寄付を求めている活動や、寄付できる物も幅広く存在しているのだ。世界の幸せのために、私には何ができるだろう、という意識を持って日常を送ることで、情報への感度が高くなり、行動にも結びつくのではないか。そうだとすれば、自分には何ができるのかを考え続けること、そして行動を起こすこと、が私たちにできること。

私はとりあえず、髪を伸ばし始めた。髪、伸ばしてるの、と尋ねる友人には、ヘアードネーションについて話をし、一緒にやろうと誘ってみる。不思議なことに、伸びたら寄付するんだと思いながら髪を洗う時、今まで髪を洗う時には感じていなかった幸せな気持ちを感じる。

